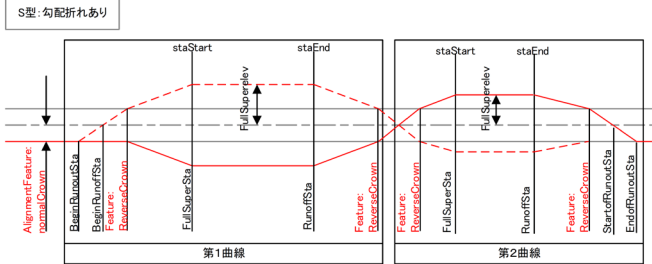
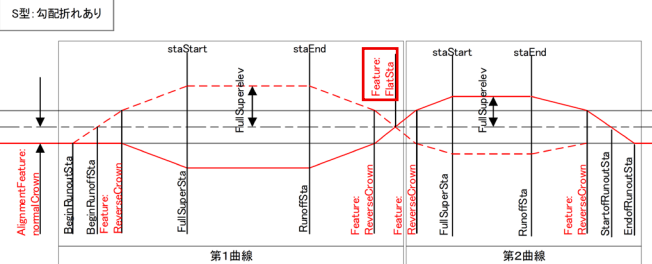


LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案） 新旧対照表

項目	LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案） Ver. 1.7		LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案） Ver. 1.8		区分
	頁	内容	頁	内容	
3-2-2 文字コード	19	文字コード 説明文 XML ファイルならびに XMLSchema ファイルに使用する文字符号化方式は、「UTF-8」または「UTF-16」とする。この理由は以下に拠る。	19	文字コード 説明文 XML ファイルならびに XMLSchema ファイルに使用する文字符号化方式は、「UTF-8」または「UTF-16」とする。この理由は以下に拠る。	修正
3-2-2 文字コード	19	文字コード 説明文 XML ファイルは、何らかのソフトウェアにより処理されることが想定されるが、近年の実装言語は ISO/IEC-10646(Unicode)を基本としており、他の文字コードの場合をこれらの言語上で扱うためには、変換操作が必要となる。また、近年の PC 上の OS も ISO/IEC-10646(Unicode)を基本としている。	19	文字コード 説明文 XML ファイルは、何らかのソフトウェアにより処理されることが想定されるが、近年の実装言語は ISO/IEC-10646(Unicode)を基本としており、他の文字コードの場合をこれらの言語上で扱うためには、変換操作が必要となる。また、近年の PC 上の OS も ISO/IEC-10646(Unicode)を基本としている。	修正
4-3-1 プロジェクト情報	35	記入例 <Property label="applicationCriterion" value="MlitLandXmlVer.1.7"/>	35	記入例 <Property label="applicationCriterion" value="MlitLandXmlVer.1.8"/>	変更
4-3-1 プロジェクト情報	35	【事業段階、適用基準】 適用基準の説明文 Property の label を"applicationCriterion"、value に "MlitLandXmlVer.1.7" ※国土交通省国土技術政策総合研究所監修の「LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案） Ver.1.7 令和 7 年 5 月」を示す。	35	【事業段階、適用基準】 適用基準の説明文 Property の label を"applicationCriterion"、value に "MlitLandXmlVer.1.8" ※国土交通省国土技術政策総合研究所監修の「LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案） Ver.1.8 令和 8 年 7 月」を示す。	変更

4-3-3 プロパティ	37-38	フィーチャによる拡張一覧 要素名：DesignCrossSectSurf <table><tr><th>Propertyのlabel</th><th>内容</th></tr><tr><td>xSectType</td><td>横断構成の種別</td></tr><tr><td>clearance</td><td>建築限界</td></tr><tr><td>pavementClass</td><td>舗装種類</td></tr><tr><td>heightType</td><td>鉛直方向の高さのタイプ</td></tr><tr><td>length</td><td>長さ</td></tr><tr><td>item</td><td>数量区分</td></tr><tr><td>constructionClass</td><td>施工区分</td></tr><tr><td>accountingLength</td><td>計上延長</td></tr><tr><td>bulkingFactorL</td><td>土量変化率・ほぐし</td></tr><tr><td>bulkingFactorC</td><td>土量変化率・締固め</td></tr></table>	Propertyのlabel	内容	xSectType	横断構成の種別	clearance	建築限界	pavementClass	舗装種類	heightType	鉛直方向の高さのタイプ	length	長さ	item	数量区分	constructionClass	施工区分	accountingLength	計上延長	bulkingFactorL	土量変化率・ほぐし	bulkingFactorC	土量変化率・締固め	37-38	フィーチャによる拡張一覧 要素名：DesignCrossSectSurf <table><tr><th>Propertyのlabel</th><th>内容</th></tr><tr><td>xSectType</td><td>横断構成の種別</td></tr><tr><td>clearance</td><td>建築限界</td></tr><tr><td>pavementClass</td><td>舗装種類</td></tr><tr><td>heightType</td><td>鉛直方向の高さのタイプ</td></tr><tr><td>length</td><td>長さ</td></tr><tr><td>item</td><td>数量区分</td></tr><tr><td>constructionClass</td><td>施工区分</td></tr><tr><td>accountingLength</td><td>計上延長</td></tr><tr><td>bulkingFactorL</td><td>土量変化率・ほぐし</td></tr><tr><td>bulkingFactorC</td><td>土量変化率・締固め</td></tr><tr><td>codeCriterion</td><td>工事工種体系適用年月</td></tr><tr><td>codeL0</td><td>L0体系管理番号</td></tr><tr><td>codeL1</td><td>L1体系管理番号</td></tr><tr><td>codeL2</td><td>L2体系管理番号</td></tr><tr><td>codeL3</td><td>L3体系管理番号</td></tr><tr><td>codeL4</td><td>L4体系管理番号</td></tr><tr><td>itemAnswer</td><td>回答番号</td></tr></table>	Propertyのlabel	内容	xSectType	横断構成の種別	clearance	建築限界	pavementClass	舗装種類	heightType	鉛直方向の高さのタイプ	length	長さ	item	数量区分	constructionClass	施工区分	accountingLength	計上延長	bulkingFactorL	土量変化率・ほぐし	bulkingFactorC	土量変化率・締固め	codeCriterion	工事工種体系適用年月	codeL0	L0体系管理番号	codeL1	L1体系管理番号	codeL2	L2体系管理番号	codeL3	L3体系管理番号	codeL4	L4体系管理番号	itemAnswer	回答番号	追加
Propertyのlabel	内容																																																														
xSectType	横断構成の種別																																																														
clearance	建築限界																																																														
pavementClass	舗装種類																																																														
heightType	鉛直方向の高さのタイプ																																																														
length	長さ																																																														
item	数量区分																																																														
constructionClass	施工区分																																																														
accountingLength	計上延長																																																														
bulkingFactorL	土量変化率・ほぐし																																																														
bulkingFactorC	土量変化率・締固め																																																														
Propertyのlabel	内容																																																														
xSectType	横断構成の種別																																																														
clearance	建築限界																																																														
pavementClass	舗装種類																																																														
heightType	鉛直方向の高さのタイプ																																																														
length	長さ																																																														
item	数量区分																																																														
constructionClass	施工区分																																																														
accountingLength	計上延長																																																														
bulkingFactorL	土量変化率・ほぐし																																																														
bulkingFactorC	土量変化率・締固め																																																														
codeCriterion	工事工種体系適用年月																																																														
codeL0	L0体系管理番号																																																														
codeL1	L1体系管理番号																																																														
codeL2	L2体系管理番号																																																														
codeL3	L3体系管理番号																																																														
codeL4	L4体系管理番号																																																														
itemAnswer	回答番号																																																														
4-3-6 座標参照系	41	【主要河川基準と東京湾中等潮位の標高差】 説明文 主要河川基準と東京湾中等位（T.P）との標高差は、CoordinateSystem の子要素として次のように Feature と Property を利用する。	41	【主要河川基準と東京湾中等潮位の標高差】 説明文 主要河川基準と東京湾中等潮位（T.P）との標高差は、CoordinateSystem の子要素として次のように Feature と Property を利用する。	修正																																																										
4-3-12 線形(中心線形)	53	【片勾配すりつけに付随する情報】 注記	53	【片勾配すりつけに付随する情報】 注記 線形全線がおがみ勾配のときは、SlopeList を用いず、normalCrown のみで定義する。	追加																																																										
4-3-12 線形(中心線形)	55	【例 1：片勾配すりつけに Superelevation を用いる場合】	55	【例 1：片勾配すりつけに Superelevation を用いる場合】	修正																																																										

4-3-24 片勾配すりつけ	66	【データ記述例】 <Superelevation staStart="278.318434541702" staEnd="315.896719043006"> <BeginRunoutSta>228.318484541702</BeginRunoutSta> <BeginRunoffSta>238.318484541702</BeginRunoffSta> <FullSuperSta>278.318434541702</FullSuperelev> <FullSuperelev>6.</FullSuperelev> <RunoffSta>315.896719043006</RunoffSta> <StartofRunoutSta>355.896619043006</StartofRunoutSta> <EndofRunoutSta>365.896669043006</EndofRunoutSta> <Feature name="ReverseCrown"> <Property label="sta" value="249.318534"/> <Property label="sta" value="345.896619"/> </Feature> . . . <Feature name="FlatSta"> <Property Label="sta" Value="395.847292"> </Feature>	66	【データ記述例】 <Superelevation staStart="278.318434541702" staEnd="315.896719043006"> <BeginRunoutSta>228.318484541702</BeginRunoutSta> <BeginRunoffSta>238.318484541702</BeginRunoffSta> <FullSuperSta>278.318434541702</FullSuperelev> <FullSuperelev>6.</FullSuperelev> <RunoffSta>315.896719043006</RunoffSta> <StartofRunoutSta>355.896619043006</StartofRunoutSta> <EndofRunoutSta>365.896669043006</EndofRunoutSta> <Feature name="ReverseCrown"> <Property label="sta" value="249.318534"/> <Property label="sta" value="345.896619"/> </Feature> . . . <Feature name="FlatSta"> <Property label="sta" value="395.847292"> </Feature>	修正
4-3-24 片勾配すりつけ	66	【S型連続曲線区間の反向点と横断勾配の反転位置】 待ち勾配区間の始点（または終点）測点：Property の label を"sta"、value に横断勾配の反転位置（横断勾配が 0% となる位置）の測点の累加距離標。	66	【S型連続曲線区間の反向点と横断勾配の反転位置】 横断勾配反転位置の測点：Property の label を"sta"、value に横断勾配の反転位置（横断勾配が 0% となる位置）の測点の累加距離標。	修正

4-3-24 片勾配すりつけ	66	【S型連続曲線区間の反方向点と横断勾配の反転位置】 注記	66	【S型連続曲線区間の反方向点と横断勾配の反転位置】 注記 ※排水勾配等の問題で勾配変化に変化点が発生する場合(ReverseCrownを使用する場合)、その区間の FlatSta を省略してはならない。	追加
4-3-24 片勾配すりつけ	71	図 4-9 片勾配すりつけの例 (S 型) S 型：勾配折れあり 	71	図 4-9 片勾配すりつけの例 (S 型) S 型：勾配折れあり 	追加（赤枠部）
4-3-40 横断面	81	【標準横断面】 標準横断面は、道路面の構成要素の幅員と勾配、のり面の勾配と比高、小段の幅と勾配の標準的な設定を示したものである。盛土区間と切土区間でそれぞれ作成するところを基本とする。代表的な横断面を標準横断と定め、標準横断の適用区間を累加距離標により指定する。	81	【標準横断面】 標準横断面は、道路面の構成要素の幅員と勾配、のり面の勾配と比高、小段の幅と勾配の標準的な設定を示したものである。盛土区間と切土区間でそれぞれ 作成すること を基本とする。代表的な横断面を標準横断と定め、標準横断の適用区間を累加距離標により指定する。	修正
4-3-41 横断形状	82	属性：desc の説明文 横断名を以下から選択、または空欄（desc 自体の出力なしを含む）とする。 【道路面、路床面、路体面、床掘面、計画堤防面、余盛堤防面、数量】	82- 83	属性：desc の説明文 横断名を以下から選択、または空欄（desc 自体の出力なしを含む）とする。 （道路面、路床面、路体面、床掘面、計画堤防面、余盛堤防面、数量） 断面変化位置の、開始する側の断面では「数量」（数量情報）を出力しない	修正および追加

4-3-41 横断形状	83	属性：material の説明文 name が Pavement の場合は材料を記入 nama が areaCut または areaExcavation の場合は、土質区分名を記入 土質区分名は、地層線（CrossSectSurf）または地層境界面（Surface）と同一名称を用いる	83-84	属性：material の説明文 name が Pavement の場合は材料を記入 ■国土交通省の積算体系に基づく数量情報を出力する場合 地層線（CrossSectSurf）または地層境界面（Surface）の土質区分名が「レキ質土」、「砂及び砂質土」または「粘性土」の場合、areaCut は「土砂」、土質区分名が「軟岩Ⅰ」または「軟岩Ⅱ」の場合、areaCut は「軟岩」、土質区分名が「中硬岩」または「硬岩」の場合、areaCut は「硬岩」とする その他の土質区分名の場合、areaCut および SlopeCut の土質区分名は地層線（CrossSectSurf）または地層境界面（Surface）と同一名称を用いる ■国土交通省の積算体系に基づく数量情報を出力しない場合 name が areaCut、areaExcavation または SlopeCut の場合、土質区分名は任意名称の使用を可とし、地層線（CrossSectSurf）または地層境界面（Surface）と同一名称を用いる また、SlopeCut の土質区分名は省略も可とする	変更および追加
----------------	----	--	-------	---	---------

4-3-41 横断形状	83	属性：area の説明文 desc が数量で、面積数量を表す場合に記入 name が SlopeFill、SlopeCut の場合は、次横断面までの法面積（㎡）を記入 name が Pavement の場合は次横断面までの舗装面積（㎡）を記入 name が上記以外の場合は断面積（㎡）を記入	84	属性：area の説明文 desc が数量で、面積数量を表す場合に記入 name が SlopeFill、SlopeCut の場合は、 前横断面から の法面積（㎡）を記入 Alignment に含まれる全ての数量項目について法面積の結果が"0.0"の場合でも必ず面積を記入 name が Pavement の場合は 前横断面から の舗装面積（㎡）を記入 name が上記以外の場合は断面積（㎡）を記入 Alignment に含まれる全ての数量項目について断面積の結果が"0.0"の場合でも必ず面積を記入	変更および追加
4-3-41 横断形状	83	属性：volume の説明文 desc が数量で、体積数量を表す場合に記入 次横断面までの体積（土量変化率、カーブ補正を考慮した形状延長から算出した体積）（m³）を記入	84	属性：volume の説明文 desc が数量で、体積数量を表す場合に記入 前横断面から の体積（土量変化率、カーブ補正を考慮した形状延長から算出した体積）（m³）を記入 Alignment に含まれる全ての数量項目について体積の結果が"0.0"の場合でも必ず体積を記入	変更および追加
4-3-41 横断形状	86	【長さ】 長さの説明文 Property の label を"length"、value に法面長または舗装幅を記入する。 desc 属性が"数量"の場合で、name 属性が"SlopeFill"または"SlopeCut"の場合は法面長を、name 属性が"Pavement"の場合は舗装幅を記入する。	87	【長さ】 長さの説明文 Property の label を"length"、value に法面長または舗装幅を記入する。 desc 属性が"数量"の場合で、name 属性が"SlopeFill"または"SlopeCut"の場合は法面長を、name 属性が"Pavement"の場合は舗装幅を記入する。 name 属性が"SlopeFill"または"SlopeCut"の場合は Alignment に含まれる全ての数量項目について法面長が"0.0"の場合でも必ず長さを記入する。	追加

4-3-41 横断形状	86	【数量区分、施工区分、計上延長、土量変化率(ほぐし)、土量変化率(締固め)】 数量区分の説明文 Property の label を"item"、value に土木工事数量算出要領(案)に記載されている数量区分名を name の要素種別に合わせて記入する。 ※数量区分名は直接項目名で記入する。	87	【数量区分、施工区分、計上延長、土量変化率(ほぐし)、土量変化率(締固め)】 数量区分の説明文 Property の label を"item"、value に土木工事数量算出要領(案)に記載されている数量区分名を name の要素種別に合わせて記入する。 name 属性が"areaFill"、"areaCut"、"SlopeFill"または"SlopeCut"の場合で、国土交通省の積算体系に基づく数量情報を出力する場合、数量区分名は工事工種体系ツリーコードデータの L4 体系名称と同一名称を使用する。 ※数量区分名は直接項目名で記入する。直接項目名に含まれる英字は半角、() は全角で記載すること。	変更および追加																																
4-3-41 横断形状	86-87	表 4-4 数量区分名 <table><tr><th>要素種別 (name)</th><th>数量区分名 (value)</th></tr><tr><td>areaFill (盛土)</td><td>路体盛土、築堤盛土、路床盛土、歩道盛土、路肩盛土、畦畔盛土、土羽土、小規模、現場制約あり等</td></tr><tr><td>areaCut (掘削)</td><td>掘削</td></tr><tr><td>areaExcavation (床掘工)</td><td>排水工、擁壁工等</td></tr><tr><td>areaBackfill (埋戻し工)</td><td>排水工、擁壁工等</td></tr><tr><td>Pavement (舗装)</td><td>アスファルト混合物、再生粗粒度アスコン等</td></tr><tr><td>SlopeFill (法面盛土)</td><td>盛土法面</td></tr><tr><td>SlopeCut (法面切土)</td><td>切土法面</td></tr></table>	要素種別 (name)	数量区分名 (value)	areaFill (盛土)	路体盛土、築堤盛土、路床盛土、歩道盛土、路肩盛土、畦畔盛土、土羽土、小規模、現場制約あり等	areaCut (掘削)	掘削	areaExcavation (床掘工)	排水工、擁壁工等	areaBackfill (埋戻し工)	排水工、擁壁工等	Pavement (舗装)	アスファルト混合物、再生粗粒度アスコン等	SlopeFill (法面盛土)	盛土法面	SlopeCut (法面切土)	切土法面	88	表 4-4 数量区分名 <table><tr><th>要素種別 (name)</th><th>数量区分名 (value)</th></tr><tr><td>areaFill (盛土)</td><td>路体(築堤)盛土、路体(築堤)盛土(ICT)、路床盛土、路床盛土(ICT)、歩道盛土、路肩盛土、畦畔盛土、土羽土、小規模、現場制約あり等</td></tr><tr><td>areaCut (掘削)</td><td>掘削</td></tr><tr><td>areaExcavation (床掘工)</td><td>排水工、擁壁工等</td></tr><tr><td>areaBackfill (埋戻し工)</td><td>排水工、擁壁工等</td></tr><tr><td>Pavement (舗装)</td><td>アスファルト混合物、再生粗粒度アスコン等</td></tr><tr><td>SlopeFill (法面盛土)</td><td>法面整形(盛土部)、法面整形(盛土部)(ICT)、盛土法面</td></tr><tr><td>SlopeCut (法面切土)</td><td>法面整形(切土部)、法面整形(切土部)(ICT)、切土法面</td></tr></table>	要素種別 (name)	数量区分名 (value)	areaFill (盛土)	路体(築堤)盛土、路体(築堤)盛土(ICT)、路床盛土、路床盛土(ICT)、歩道盛土、路肩盛土、畦畔盛土、土羽土、小規模、現場制約あり等	areaCut (掘削)	掘削	areaExcavation (床掘工)	排水工、擁壁工等	areaBackfill (埋戻し工)	排水工、擁壁工等	Pavement (舗装)	アスファルト混合物、再生粗粒度アスコン等	SlopeFill (法面盛土)	法面整形(盛土部)、法面整形(盛土部)(ICT)、盛土法面	SlopeCut (法面切土)	法面整形(切土部)、法面整形(切土部)(ICT)、切土法面	追加
要素種別 (name)	数量区分名 (value)																																				
areaFill (盛土)	路体盛土、築堤盛土、路床盛土、歩道盛土、路肩盛土、畦畔盛土、土羽土、小規模、現場制約あり等																																				
areaCut (掘削)	掘削																																				
areaExcavation (床掘工)	排水工、擁壁工等																																				
areaBackfill (埋戻し工)	排水工、擁壁工等																																				
Pavement (舗装)	アスファルト混合物、再生粗粒度アスコン等																																				
SlopeFill (法面盛土)	盛土法面																																				
SlopeCut (法面切土)	切土法面																																				
要素種別 (name)	数量区分名 (value)																																				
areaFill (盛土)	路体(築堤)盛土、路体(築堤)盛土(ICT)、路床盛土、路床盛土(ICT)、歩道盛土、路肩盛土、畦畔盛土、土羽土、小規模、現場制約あり等																																				
areaCut (掘削)	掘削																																				
areaExcavation (床掘工)	排水工、擁壁工等																																				
areaBackfill (埋戻し工)	排水工、擁壁工等																																				
Pavement (舗装)	アスファルト混合物、再生粗粒度アスコン等																																				
SlopeFill (法面盛土)	法面整形(盛土部)、法面整形(盛土部)(ICT)、盛土法面																																				
SlopeCut (法面切土)	法面整形(切土部)、法面整形(切土部)(ICT)、切土法面																																				

4-3-41 横断形状	87	【数量区分、施工区分、計上延長、土量変化率(ほぐし)、土量変化率(締固め)】 施工区分の説明文 Property の label を"constructionClass"、value に土木工事数量算出要領(案)に記載されている施工区分名を name の要素種別に合わせて記入する。	88	【数量区分、施工区分、計上延長、土量変化率(ほぐし)、土量変化率(締固め)】 施工区分の説明文 Property の label を"constructionClass"、value に土木工事数量算出要領(案)に記載されている施工区分名を name の要素種別に合わせて記入する。 name 属性が"areaFill"または"areaCut"の場合で、国土交通省の積算体系に基づく数量情報を出力する場合、施工区分名は工事工種体系ツリーコードデータの回答名称と同一名称を使用する。	追加																				
4-3-41 横断形状	87	表 4-5 施工区分名 <table><tr><th>要素種別 (name)</th><th>施工区分名 (value) ・ 列举子</th></tr><tr><td>areaFill (盛土) ※数量区分名が路体盛土、築堤盛土、路床盛土の場合のみ</td><td>2.5m未満、2.5m以上4m未満、4m以上</td></tr><tr><td>areaCut (掘削)</td><td>オープンカット、片切掘削、水中掘削、現場制約あり、小規模</td></tr><tr><td>areaExcavation (床掘工)</td><td>標準、施工幅1m以上2m未満、深さ5m超20m以下、深さ20m超、小規模、現場制約あり</td></tr><tr><td>areaBackfill (埋戻し工)</td><td>最小4m以上、最大4m以上、最大1m以上4m未満、最大1m未満、小規模、現場制約あり</td></tr></table>	要素種別 (name)	施工区分名 (value) ・ 列举子	areaFill (盛土) ※数量区分名が路体盛土、築堤盛土、路床盛土の場合のみ	2.5m未満、2.5m以上4m未満、4m以上	areaCut (掘削)	オープンカット、片切掘削、水中掘削、現場制約あり、小規模	areaExcavation (床掘工)	標準、施工幅1m以上2m未満、深さ5m超20m以下、深さ20m超、小規模、現場制約あり	areaBackfill (埋戻し工)	最小4m以上、最大4m以上、最大1m以上4m未満、最大1m未満、小規模、現場制約あり	88	表 4-5 施工区分名 <table><tr><th>要素種別 (name)</th><th>施工区分名 (value) ・ 列举子</th></tr><tr><td>areaFill (盛土)</td><td>2.5m未満、2.5m以上4.0m未満、4.0m以上</td></tr><tr><td>areaCut (掘削)</td><td>オープンカット、片切掘削、水中掘削、現場制約あり、上記以外(小規模)</td></tr><tr><td>areaExcavation (床掘工)</td><td>標準、施工幅1m以上2m未満、深さ5m超20m以下、深さ20m超、小規模、現場制約あり</td></tr><tr><td>areaBackfill (埋戻し工)</td><td>最小4m以上、最大4m以上、最大1m以上4m未満、最大1m未満、小規模、現場制約あり</td></tr></table>	要素種別 (name)	施工区分名 (value) ・ 列举子	areaFill (盛土)	2.5m未満、2.5m以上4.0m未満、4.0m以上	areaCut (掘削)	オープンカット、片切掘削、水中掘削、現場制約あり、上記以外(小規模)	areaExcavation (床掘工)	標準、施工幅1m以上2m未満、深さ5m超20m以下、深さ20m超、小規模、現場制約あり	areaBackfill (埋戻し工)	最小4m以上、最大4m以上、最大1m以上4m未満、最大1m未満、小規模、現場制約あり	変更
要素種別 (name)	施工区分名 (value) ・ 列举子																								
areaFill (盛土) ※数量区分名が路体盛土、築堤盛土、路床盛土の場合のみ	2.5m未満、2.5m以上4m未満、4m以上																								
areaCut (掘削)	オープンカット、片切掘削、水中掘削、現場制約あり、小規模																								
areaExcavation (床掘工)	標準、施工幅1m以上2m未満、深さ5m超20m以下、深さ20m超、小規模、現場制約あり																								
areaBackfill (埋戻し工)	最小4m以上、最大4m以上、最大1m以上4m未満、最大1m未満、小規模、現場制約あり																								
要素種別 (name)	施工区分名 (value) ・ 列举子																								
areaFill (盛土)	2.5m未満、2.5m以上4.0m未満、4.0m以上																								
areaCut (掘削)	オープンカット、片切掘削、水中掘削、現場制約あり、上記以外(小規模)																								
areaExcavation (床掘工)	標準、施工幅1m以上2m未満、深さ5m超20m以下、深さ20m超、小規模、現場制約あり																								
areaBackfill (埋戻し工)	最小4m以上、最大4m以上、最大1m以上4m未満、最大1m未満、小規模、現場制約あり																								

4-3-41 横断形状	87	【数量区分、施工区分、計上延長、土量変化率(ほぐし)、土量変化率(締固め)】 計上延長の説明文 Property の label を"accountingLength"、value に次横断面までのカーブ補正を考慮した距離を記入する。	88	【数量区分、施工区分、計上延長、土量変化率(ほぐし)、土量変化率(締固め)】 計上延長の説明文 Property の label を"accountingLength"、value に前横断面からのカーブ補正を考慮した距離を記入する。	変更
4-3-41 横断形状	—	—	89	【工事工種体系適用年月、L0 体系管理番号、L1 体系管理番号、L2 体系管理番号、L3 体系管理番号、L4 体系管理番号、回答番号】 工事工種体系適用年月、L0 体系管理番号、L1 体系管理番号、L2 体系管理番号、L3 体系管理番号、L4 体系管理番号、回答番号は、DesignCrossSectSurf の子要素として次のように Feature と Property を利用する。 なお、本 Feature 要素は国土交通省の積算体系に基づく数量情報を出力する場合にのみ使用する。 Feature の name は省略 工事工種体系適用年月：Property の label を"codeCriterion"、value に国土交通省で公開される工事工種体系ツリーコードデータのファイル名に含まれる適用開始年月_更新履歴を記入する。 「codedata_202604_01.xlsx」の場合、value に"202604_01"と記入する。 L0 体系管理番号：Property の label を"codeL0"、value に工事工種体系ツリーコードデータの L0 体系管理番号を記入する。 L1 体系管理番号：Property の label を"codeL1"、value に工事工種体系ツリーコードデータの L1 体系管理番号を記入する。	追加

				L2 体系管理番号：Property の label を"codeL2"、value に工事工種体系ツリーコードデータの L2 体系管理番号を記入する。 L3 体系管理番号：Property の label を"codeL3"、value に工事工種体系ツリーコードデータの L3 体系管理番号を記入する。 L4 体系管理番号：Property の label を"codeL4"、value に工事工種体系ツリーコードデータの L4 体系管理番号を記入する。 回答番号：Property の label を"itemAnswer"、value に工事工種体系ツリーコードデータの回答番号を記入する。なお、回答番号については複数の記入を可とする。	
--	--	--	--	---	--

4-3-41 横断形状	97	【数量区分の作成方法】 説明文 下図のような路床盛土（転圧幅 4m 以上）を作成する場合は、6 点の構成点を連続した CrossSectPnt で登録し 1 点目の構成点に戻って断面を閉じる。なお、構成点は幅員中心から右外に向かって時計周りに定義する。 DesignCrossSectSurf の要素種別（name）は盛土（areaFill）、注記（desc）は数量、構成点の位置（side）は both、閉合フラグ（closedArea）は true を指定する。他に、面積（area）、体積（volume）、数量区分（Feature）、施工区分（Feature）、計上延長（Feature）、土量変化率（締固め）（Feature）を登録する。	99 【数量区分の作成方法】 説明文 下図のような路床盛土（転圧幅 4m 以上）を作成する場合は、6 点の構成点を連続した CrossSectPnt で登録し 1 点目の構成点に戻って断面を閉じる。なお、構成点は幅員中心から右外に向かって時計周りに定義する。 DesignCrossSectSurf の要素種別（name）は盛土（areaFill）、注記（desc）は数量、構成点の位置（side）は both、閉合フラグ（closedArea）は true を指定する。他に、面積（area）、体積（volume）、数量区分（Feature）、施工区分（Feature）、計上延長（Feature）、土量変化率（締固め）（Feature）、必要に応じて、工事工種体系適用年月（Feature）、L0 体系管理番号（Feature）、L1 体系管理番号（Feature）、L2 体系管理番号（Feature）、L3 体系管理番号（Feature）、L4 体系管理番号（Feature）、回答番号（Feature）を登録する。	追加
------------------------	-----------	--	---	-----------

4-3-41 横断形状	97	【数量区分の作成方法】 図 4-31 数量区分の作成方法 <pre> <CrossSect name=" No.0+0.00" sta="0.0000"> <DesignCrossSectSurf name="areaFill" desc="数量" side="both" closedArea="true" area="12.4" volume="248.0"> <CrossSectPnt code="R1n0">0.000 -0.600</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n1">5.427 -0.709</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n2">6.974 -1.739</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n3">0.000 -1.600</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n4">-6.974 -1.739</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n5">-5.427 -0.709</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n0">0.000 -0.600</CrossSectPnt> <Feature> <Property label="item" value="路床盛土"/> <Property label="constructionClass" value="4m 以上"/> <Property label="accountingLength" value="20.0"/> <Property label="bulkingFactorC" value="1.00"/> </Feature> </DesignCrossSectSurf> . . . </CrossSect> </pre>	99 【数量区分の作成方法】 図 4-31 数量区分の作成方法 <pre> <CrossSect name=" No.0+0.00" sta="0.0000"> <DesignCrossSectSurf name="areaFill" desc="数量" side="both" closedArea="true" area="12.4" volume="248.0"> <CrossSectPnt code="R1n0">0.000 -0.600</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n1">5.427 -0.709</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n2">6.974 -1.739</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n3">0.000 -1.600</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n4">-6.974 -1.739</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n5">-5.427 -0.709</CrossSectPnt> <CrossSectPnt code="R1n0">0.000 -0.600</CrossSectPnt> <Feature> <Property label="item" value="路床盛土"/> <Property label="constructionClass" value="4.0m 以上"/> <Property label="accountingLength" value="20.0"/> <Property label="bulkingFactorC" value="1.00"/> <Property label="codeCriterion" value="202604_01"/> <Property label="codeL0" value="1470700101"/> <Property label="codeL1" value="1301600101"/> <Property label="codeL2" value="1000500102"/> <Property label="codeL3" value="1001500102"/> <Property label="codeL4" value="B013305201"/> <Property label="itemAnswer" value="B013305201_1_3"/> </Feature> </DesignCrossSectSurf> . . . </CrossSect> </pre>	追加
4-3-43 地形情報	99	【地形線を用いた地層表現】 注記 ※土質区分名は土工数量計算書に記入する土質区分名を入力する。(例：砂、砂質土、粘性土、軟岩Ⅰ等)	101 【地形線を用いた地層表現】 注記 ※土質区分名は土工数量計算書に記入する土質区分名を入力する。(例：砂、砂質土、粘性土、軟岩Ⅰ等) なお、国土交通省の積算体系に基づく数量情報を出力する場合、土質区分名は「レキ質土、砂及び砂質土、粘性土、岩塊・玉石、軟岩Ⅰ、軟岩Ⅱ、中硬岩、硬岩」より選択とする。	追加

4-3-49 要素種別サーフ ェス	105	【地層境界面】 注記 ※土質区分名は土工数量計算書に記入する土質区分名 （例：砂、砂質土、粘性土、軟岩等）を入力する。	107	【地層境界面】 注記 ※土質区分名は土工数量計算書に記入する土質区分名 （例：砂、砂質土、粘性土、軟岩等）を入力する。 なお、国土交通省の積算体系に基づく数量情報を出力 する場合、土質区分名は「レキ質土、砂及び砂質土、粘 性土、岩塊・玉石、軟岩Ⅰ、軟岩Ⅱ、中硬岩、硬岩」よ り選択とする。	追加
5 サンプルデータ	111	サンプルデータ	—	—	削除（OCF ホームペー ジにてサン プルデータ 公開予定）
【参考】 LandXML1.2の サブセットスキ ーマ	136	<xs:documentation>A list of reference names values referring to one or more Alignment.name attribute s.</xs:documentation> <xs:documentation>A Feature element name attribu te reference value refering to one Feature.name attr ibute.</xs:documentation>	114	<xs:documentation>A list of reference names values referring to one or more Alignment.name attribute s.</xs:documentation> <xs:documentation>A Feature element name attribu te reference value referring to one Feature.name att ribute.</xs:documentation>	修正
	145	<!-- Angular Units element definition-->	123	<!-- Angular Units element definition-->	修正